Cisco ワークグループ ブリッジの使用

- 機能情報の確認 （1 ページ）
- Cisco ワークグループ ブリッジと Cisco 以外のワークグループ ブリッジについて （1 ページ）
- ワークグループ ブリッジ状態のモニタリング （2 ページ）
- WGB の問題のデバッグ（CLI） （2 ページ）
- ワークグループ ブリッジの設定例 （4 ページ）

機能情報の確認

ご使用のソフトウェア リリースでは、このモジュールで説明されるすべての機能がサポートされているとは限りません。最新の機能情報と注意事項については、ご使用のプラットフォームとソフトウェア リリースに対応したリリース ノートを参照してください。

プラットフォームのサポートおよびシスコ ソフトウェア イメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。 Cisco Feature Navigator には、http://www.cisco.com/go/cfn からアクセスします。 Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Cisco ワークグループ ブリッジと Cisco 以外のワークグループ ブリッジについて

WGB とは、Autonomous IOS アクセス ポイント上で設定でき、イーサネットで WGB アクセス ポイントに接続されたクライアントの代わりに Lightweight アクセス ポイントに無線で接続を提供するモードです。イーサネット インターフェイス上の有線クライアントの MAC アドレスを記憶し、それを Internet Access Point Protocol（IAPP）メッセージングを使用して Lightweight アクセス ポイントに報告することで、WGB は単一の無線セグメントを介して有線ネットワークに接続します。WGB は、単一の無線接続を Lightweight アクセス ポイントに確立して、有線クライアントに無線で接続できるようになります。

Cisco WGB が使用されている場合、WGB は、アソシエートされているすべてのクライアントをアクセス ポイントに通知します。デバイスアクセス ポイントにアソシエートされたクライ

アントを認識します。シスコ以外の WGB が使用されている場合、デバイスには、WGB の後方にある有線セグメントのクライアントの IP アドレスに関する情報は伝わりません。この情報がないと、デバイスは以下の種類のメッセージをドロップします。

- WGB クライアントに対するディストリビューション システムからの ARP REQ
- WGB クライアントからの ARP RPLY
- WGB クライアントからの DHCP REQ
- WGB クライアントに対する DHCP RPLY

ワークグループ ブリッジ状態のモニタリング

（注） デバイス GUI を使用してこのタスクを実行する手順は現在利用できません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	**enable** 例： `Device# enable`	特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 2	**show wireless wgb summary** 例： `Device# show wireless wgb summary`	ネットワーク上のワークグループブリッジ（WGB）を表示します。
ステップ 3	**show wireless wgb mac-address** *wgb_mac_address* **detail** 例： `Device# show wireless wgb mac-address 00:0d:ed:dd:25:82 detail`	特定の WGB に接続されている有線クライアントの詳細を表示します。

WGB の問題のデバッグ（CLI）

（注） デバイス GUI を使用してこのタスクを実行する手順は現在利用できません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	**enable** 例： `Device# enable`	特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 2	**debug iapp all** 例： `Device# debug iapp all`	IAPP メッセージのデバッグをイネーブルにします。
ステップ 3	**debug iapp error** 例： `Device# debug iapp error`	IAPP エラー イベントのデバッグをイネーブルにします。
ステップ 4	**debug iapp packet** 例： `Device# debug iapp packet`	IAPP パケットのデバッグをイネーブルにします。
ステップ 5	**debug mobility handoff** [**switch** *switch_number*] 例： `Device# debug mobility handoff`	ローミング問題のデバッグをイネーブルにします。
ステップ 6	**debug dhcp** 例： `Device# debug dhcp`	DHCP を使用する場合の IP 割り当ての問題をデバッグします。
ステップ 7	**debug dot11 mobile** 例： `Device# debug dot11 mobile`	dot11/モバイル デバッグをイネーブルにします。スタティック IP を使用する場合の IP 割り当ての問題をデバッグします。
ステップ 8	**debug dot11 state** 例： `Device# debug dot11 state`	dot11/ステート デバッグをイネーブルにします。スタティック IP を使用する場合の IP 割り当ての問題をデバッグします。

ワークグループ ブリッジの設定例

WGB の設定：例

次に、40 ビットの WEP キーでスタティック WEP を使用して WGB アクセス ポイントを設定する例を示します。

```
Device# configure terminal
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
Device(config)# dot11 ssid WGB_with_static_WEP
Device(config-ssid)# authentication open
Device(config-ssid)# guest-mode
Device(config-ssid)# exit
Device(config)# interface  dot11Radio 0
Device(config)# station-role workgroup-bridge
Device(config-if)# encry mode wep 40
Device(config-if)# encry key 1 size 40 0 1234567890
Device(config-if)# ssid WGB_with_static_WEP
Device(config-if)# end
```

この WGB がアクセス ポイントにアソシエートしていることを確認するには、WGB に次のコマンドを入力します。

show dot11 association

以下に類似した情報が表示されます。

```
Device# show dot11 associations
802.11 Client Stations on Dot11Radio0:
SSID [FCVTESTING] :
MAC Address    IP address      Device        Name            Parent         State
000b.8581.6aee 10.11.12.1      WGB-client    map1            -              Assoc
ap#
```